

令和元年度全国水生生物調査結果

1. 参加人数及び参加団体数

令和元年度の参加人数は53,269人であった。
 うち、一級河川※1は15,664人であり、その他の河川※2は37,605人であった。また、参加団体数は1,392団体で、うち一級河川は417団体であった。
 参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで各種団体、観察会の順番であった。
 都道府県別の参加者数では岐阜県が最も多く、次いで岩手県、愛知県の順番であった。

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加人数	うち一級河川
1	岐阜	5,784	260
2	岩手	4,499	284
3	愛知	3,619	334
4	北海道	2,977	2,764
5	広島	2,918	415

※1一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）
 ※2一級河川都道府県管理区間及び二級河川等※1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

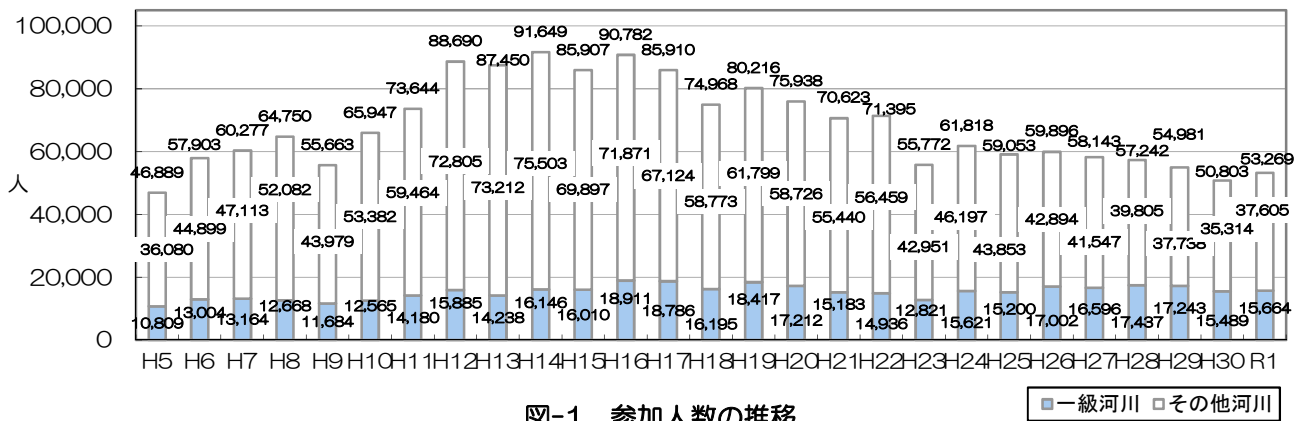


図-1 参加人数の推移

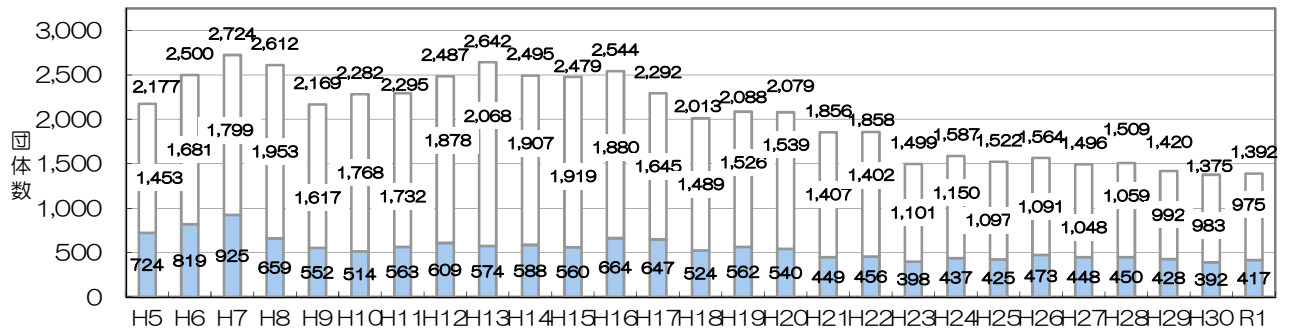
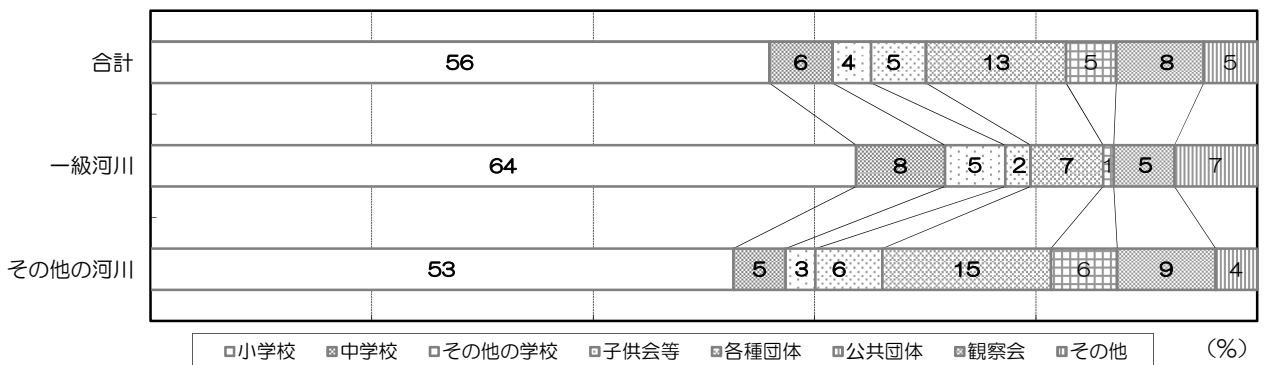


図-2 参加団体数の推移



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-3 参加人数の団体種類別構成比

2. 調査地点数

調査地点数は1,984地点であった。

内訳は、一級河川は453地点、その他の河川は1,531地点であった。

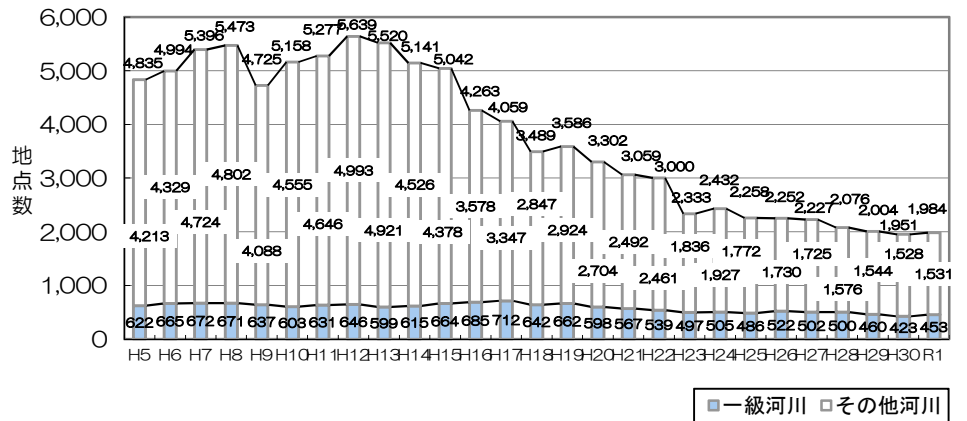
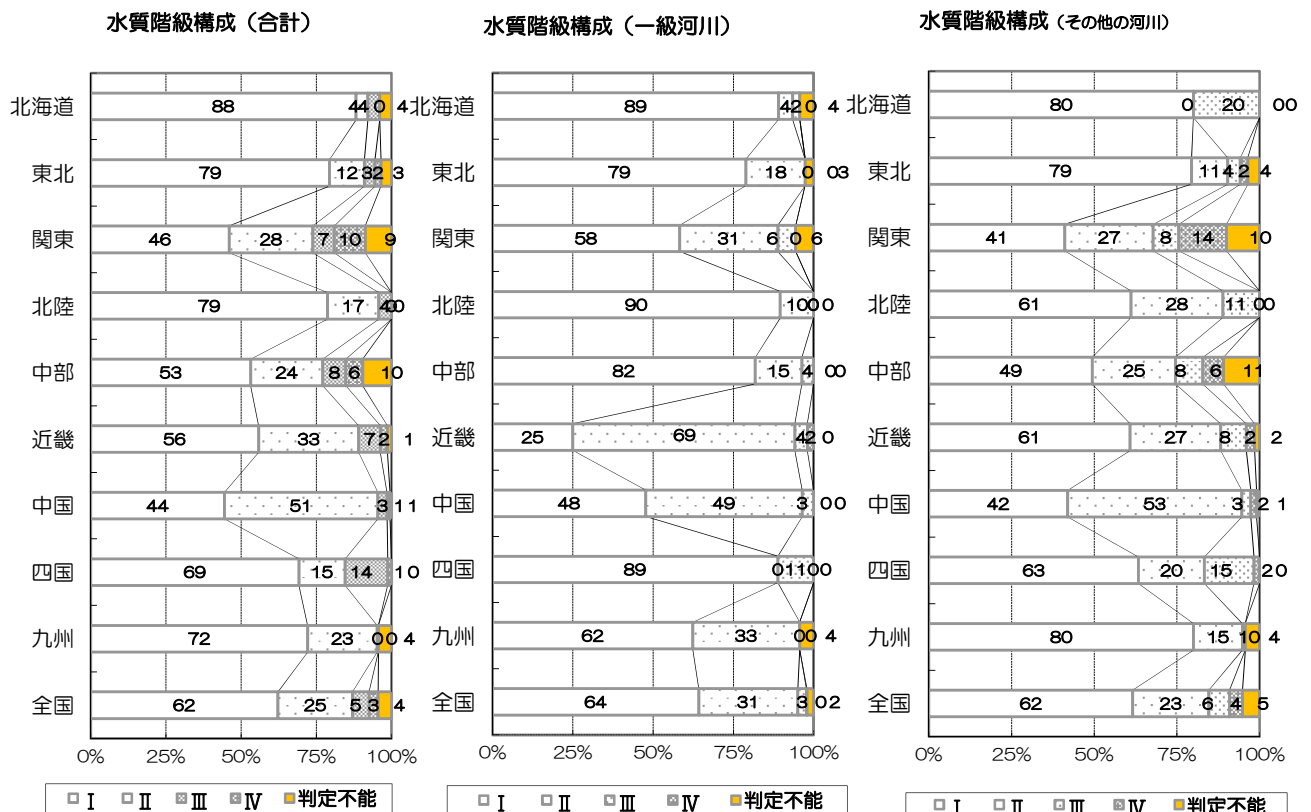


図-4 調査地点数の推移

3. 地域別水質階級構成（地域別の水質の状況）

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状況を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概括的に知ることができると考えられる。

令和元年度は、全国で水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点が62%、Ⅱ（ややきれいな水）が25%、Ⅲ（きたない水）が5%、Ⅳ（大変きたない水）が3%であった。



※判定不能の数値ラベルは図中に表示していない。
四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

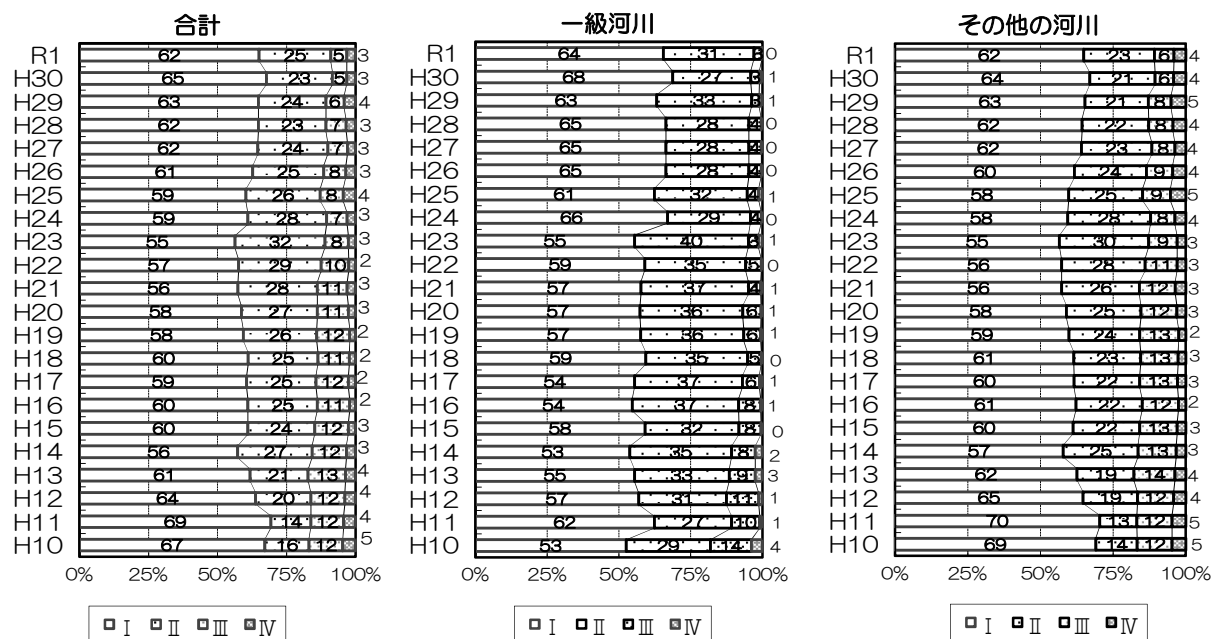
図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。

平成11年度をピークに、I（きれいな水）と判定された地点の割合は減少傾向にあったが、平成14年度以降は55～60%前後でほぼ横這いとなっている。本年度は、I（きれいな水）と判定された地点の割合は前年度より3ポイント低い62%であった。

なお、年次ごとの調査地点については相違しており、必ずしも同地点を比較したものではない。

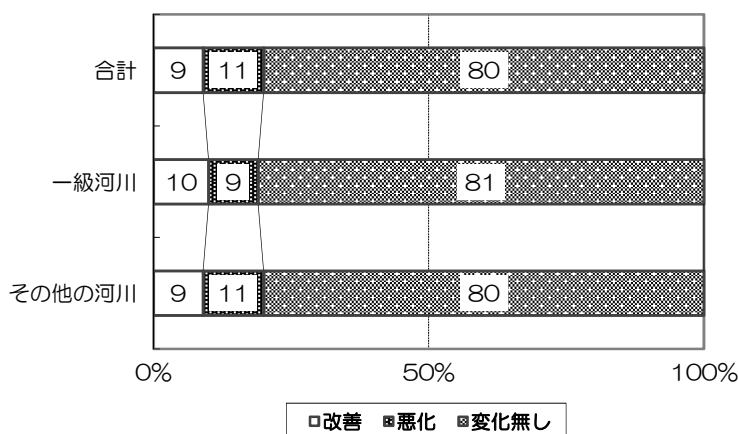


※1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
 ※2平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前との厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（H30）との比較

前年度と同じ地点で調査された873地点について比較すると、9%の地点が改善、11%の地点が悪化、80%の地点が同じ水質階級であった。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較